

● 読書感想文コンクール 小学校 4・5・6 学年 の部 ●



男澤 綾 (おとこざわ あや) 梶田小 6 年生

作品名: 犬と私の十の約束

図 書: 犬と私の十の約束

私は、『犬と私の十の約束』という本を読みました。この本は、主人公の「あかり」が愛犬の「ソックス」と過ごした日々について、身近に起こったことなどを交えて描いた物語です。

私は犬や猫など、飼ったことはありませんが、動物が好きなので、この本に興味を持ちました。

私がこの本を読んで一番心に残った場面は、ソックスがこの世を去っていく場面です。

楽しい時も、どんなに落ち込んでいても、いつも一緒にいてくれたソックスは、あかりにとっては『宝』のような存在だったと思います。その宝物のソックスと別れるということは、あかりにとってはどれだけ悲しかったことか、自分に置き換えてみると、涙がこぼれて仕方ありませんでした。

この本の題名にあるように、あかりは、病気で亡くなる前の母親と、ソックスを飼うに際して十個の約束を結びます。その約束の十個目は次のようなものでした。

「⊕、私（ソックス）が死ぬ時、お願いします。そばにいて下さい、どうか覚えていて下さい、私がずっとあなたを愛していたことを。」

あかりは、きちんとこの約束を守りました。ソックスがこの世を去るとき、手を握って、ずっとそばにいてあげたからです。

私も、この 8 月、あかりとおなじ悲しい体験をしました。大好きな祖父を亡くしたのでです。

祖父は体調が悪く、検査のため入院しましたが、容態はどんどん悪くなってしまいました。その後も良い方向へと進むことなく、あっという間に亡くなってしまったのです。祖父のお見舞いに家族で行ったりしましたが、私は祖父に会いたくても会えませんでした。なぜなら、祖父が入院していた病院は、小学生以下は、病室に入っははいけなかったからです。

私は、手紙を書いて母に渡してもらったり、

「早く良くなって。頑張る。」

と、心で祈るしかありませんでした。結局、私は祖父が旅立つ時も一緒にいられませんでしたが、だから今の私には、あかりのその時の気持ちがとてもよく分かります。大切な人や動物を失った時の気持ちは、どんな人もみな、同じだと思います。

祖父と会えたのは、亡くなって家に戻ってきた時になってしまいました。もう何も話す事も、笑ってくれる事もなくなってしまい、冷たく硬くなってしまった身体や顔に触れて、涙ばかりが出てきました。

私は祖父と何か約束していたのではありませんが、あかりの様に、心の中で約束しました。

「おじいちゃん、ずっと覚えています。

おじいちゃんが私を大切にしてくれていた事を、心の中に刻んでおきます。」と。